| 科目番号 | 50002 | 分類 | 共通科目 | 履修者 | 高度実践看護コース（共通科目） | 学年 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 保健医療福祉システム特論【ヘルスケアシステム特論】<br>（ Advanced Course in Health and Welfare Systems ） | | | | | 1<br>配当ｾﾒｽﾀｰ<br>後期 |

| 担当者 | ○永井 智子　他１名 | 区分 | 選択 | 単位 | 2 | 時間数 | 30 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|

| 授業の概要および目標 | 学位授与の方針との関連 | |
|---|---|---|
| 【概　要】<br>保健医療福祉分野において、看護職が果たすべき役割を理解するために保健医療福祉に係る制度及び政策決定プロセスについて基礎的な知識を深める。また、政策医療におけるネットワークの現状も理解し、実際的にどのようなシステム活用により連携が行われているのか、探索的に学び、理解を深める。<br>国民のニーズに沿う医療・看護の提供のための連携、ネットワークの必要性を理解する。具体的には、保健医療福祉におけるネットワークシステムを理解し、将来的に病病連携、看看連携、医療福祉連携など、新たなシステム構築に向けてのネットワークを創出できるようにする。<br>【目　標】<br>1．疾病と社会との関係について理解する。<br>2．社会保障全体の財政の構造を理解する。<br>3．国民のニーズに沿う医療・看護の提供のための連携、ネットワークの必要性を理解する。<br>4．政策医療におけるネットワークの理解を深める。<br>5．医療・看護における新たなネットワークを考える。<br>6．看護における情報管理、情報提供の在り方を考える。 | | 1．クリティカル領域における患者の状況を総合的に判断する能力 |
| | | 2．クリティカル領域における患者に必要な治療を実践できる能力 |
| | | 3．患者に安心・安全な医療をタイムリーかつ効果的に提供するために医師等との協働ができ、ネットワークを推進できる能力 |
| | | 4．専門職としての倫理的意思決定能力 |
| | ○ | 5．高度看護実践者として、教育的経営的な視点をもつトップマネジメント能力 |
| | | 6．臨床実践に潜む暗黙知を形式知へと創出する研究開発能力 |
| | | 7．クリティカル領域における患者の危機的状況を支援する能力 |

授　業　計　画

| 回 | 内　容 | 担当教員 |
|---|---|---|
| 第1回 | ガイダンス | 永井<br>他１名 |
| 第2回 | 社会保障はどこからきたのか | |
| 第3回 | 社会保障はどこに行くのか | |
| 第4回 | 社会保障はどうこなしてきたのか | |
| 第５回 | 日本の医療保険制度の特徴 | |
| 第６回 | 日本の社会福祉政策の潮流（施設、在宅、地域福祉） | |
| 第７回 | 社会保障制度をめぐる現状と課題① | |
| 第８回 | 社会保障制度をめぐる現状と課題② | |
| 第９回 | 社会保障における国・自治体の役割と国公立の独立行政法人化 | |
| 第 10～13 回 | 実践現場における保健医療福祉システムの課題（ワーク） | |
| 第 14～15 回 | 実践現場における保健医療福祉システムの課題（課題発表） | |

| | |
|---|---|
| 事前・事後学習 | 事前学習：新聞等、様々な媒体を利用して、保健医療福祉の最近の動向をみておくこと。<br>事後学習：講義の配布資料を参考に、自ら関連のある文献等を探索すること。<br>単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に取り組むこと。 |
| 評価の方法 | 講義等への参画状況（10%）　課題レポート及びプレゼンテーション（90%）<br>フィードバックは適宜行う。 |
| 参考図書・資料等 | 『看護管理学習テキスト 第３版 第１巻 ヘルスケアシステム論 2025 年版』<br>随時参考資料を提示する。 |
| 備　　考 | オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。 |